



特集 流通BMS フォーラム&ソリューション EXPO2010

流通BMS協議会 会報（流通BMSニュース）No.10 をお届け致します。

11月9日（火）東京・江東区のTOC有明コンベンションホールで、第2回目の「流通BMSフォーラム&ソリューション EXPO2010」を開催いたしました。



流通BMSフォーラム2010には532名の参加を頂きました。主催者挨拶（流通システム標準普及推進協議会 井上淳副会長）、来賓挨拶（経済産業省 商務流通グループ 流通政策課 須藤治課長）に続いて各セッションを実施いたしました。

セッション1 流通システム標準普及推進協議会 活動報告

セッション2 ㈱コメリの経営戦略と情報システム

セッション3 ㈱キシショッピングセンターにおける流通BMSの活用事例

㈱丸井における流通BMSの活用事例

セッション2では、㈱コメリ 代表取締役社長 捧雄一郎氏に、コメリの経営戦略を中心に講演をいただきました。本会報では、セッション1、セッション3の内容をご報告いたします。

また、併設した流通BMSソリューション EXPO2010（機器ソフト・ネットワークサービス展示会）には、流通BMS関連のパッケージソフト、ネットワークサービス、業務ソフト、セキュリティシステムなどを提供する協議会支援会員企業21社に出展して頂き、461名の来場者がありました。流通BMSソリューション EXPO2010の内容を、次号の会報No.11でご報告いたします。



流通BMSフォーラム会場



流通BMSソリューションEXPO会場

## セッション1 流通システム標準普及推進協議会 活動報告

講演者：流通 BMS 維持管理に関する活動

流通システム標準普及推進協議会 事務局 坂本尚登／坂本真人

今後の重点推進策 — さらなる普及に向けて

運営委員会 委員長 稲垣 登志男 氏 (株式会社 IT ネットワーク本部 本部長代理)

### I. 流通 BMS 維持管理に関する活動 6 部会の活動状況 (事務局)

流通システム標準普及推進協議会 (以下、流通 BMS 協議会) は、2010 年 10 月現在、正会員 48 組織、支援企業 144 企業の会員数で、総会、運営委員会のもと、5 つの各種標準仕様に関する CR を審議・承認を行う会議体と、普及推進部会から構成される事業実施体制により、活動を行っている。

2009 年度は、2009 年 10 月に基本形メッセージの統合を行い Ver.1.3 を公開している。また、百貨店版メッセージの改定を行い Ver.2.0 として 2010 年 3 月に公開済みである。

なお、基本形商品マスタメッセージの開発については、継続検討中である。

2010 年度の主な活動として、メッセージメンテナンス部会では、百貨店版 Ver.2.1 の公開、メンテナンス方式の改訂、基本形 Ver.1.3 集計表メッセージの修正などを行った。商品マスタデータ部会では、商品マスタメッセージ (基本形) の公開を目指して最終確認中である。また、日用品・化粧品業界の運用ガイドラインについても策定検討を行う予定である。物流システム部会では、CR は発生していないが、年度内に物流センター見学を兼ねて部会を開催する予定である。技術仕様部会では、認証局の 2010 年問題への対応を行う予定である。本年度新設された Web 型流通 BMS 検討部会では、Web 型流通 BMS は、EDI (サーバ型、クライアント型) の補完であることを明確化し、Web 型流通 BMS ガイドの完成と公開を目指している。



坂本 真人

### II. 流通 BMS 普及推進に関する活動 普及推進活動状況 (事務局)

流通 BMS の普及推進活動は、運営委員会の指導・助言のもと、普及推進部会が、内容検討・実施協力を行っている。

主な活動としては、標準に沿った開発と運用の徹底のために、流通 BMS 講座を実施している。流通 EDI 入門講座、流通 BMS 講座 (導入編)、流通 BMS 講座 (システム設計編) など、受講者のレベルとニーズに応じた講座体系となっている。

標準を広めるために、流通 BMS 普及セミナー(※)を全国主要都市で開催予定である。また、年 1 回のイベントとして、今回の流通 BMS フォーラム&ソリューション EXPO を開催している。併せて、協議会の会報誌 (流通 BMS ニュース) を隔月で発行し、流通 BMS 協議会の最新状況を発信している。なお、流通 BMS 導入企業を訪問し、導入効果・導入時の留意点など現場の意見を紹介する「流通 BMS 探訪」も、不定期で発行している。さらに、効果を分かりやすく解説した資料として「概説 流通 BMS」も発行している。

標準に沿った製品・サービスの紹介ニーズに対しては、「流通ビジネスメッセージ標準」「流通 BMS」「流通 BMS ロゴマーク」の商標を登録し、技術仕様部会で検討した条件に適合する製品やサービスにロゴマークを付与している。2010 年 10 月現在、31 企業 55 製品・サービスが申請さ



坂本 尚登

れている。これにより、流通 BMS の適切な利用促進と不適切な使用の抑制が図れることが期待される。

普及状況を知りたいというニーズに対しては、導入実績豊富な支援会員 11 社の協力を得て、導入済／導入予定企業の候補をリストアップし、候補企業に対して、状況確認と社名公開可否の確認を行った。その結果、2010 年 11 月 9 日時点で、小売業では 53 社で導入済、23 社で導入予定、卸売業・メーカーでは 83 社で導入済、10 社で導入予定、として公開している。（具体的な企業名は、協議会ホームページ参照）但し、これらの公開企業名は、導入済・導入予定企業の一部であり、今後も調査を継続する。

※流通 BMS 普及セミナーを、全国主要都市で開催しています。開催地区、開催日は次の通りです。

札幌(2/17)、新潟(11/17 開催済)、名古屋(1/27)、大阪(2/10)、福岡(2/3)

普及セミナーのお申込みは、下記 URL からお願いします。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/2010fukyu.html>

### Ⅲ. 今後の重点推進策（稲垣 登志男運営委員長）

当社は、製配販の中の配（卸売業）に位置づけられる。日本加工食品卸協会の委員として、手弁当で流通 BMS 協議会に参加している。また、流通 BMS 協議会の運営委員長、普及推進部会長を仰せつかっている。

流通 BMS は、さらなる普及拡大の時期にある。今後のさらなる普及に向けて重点施策 3 点を説明する。



稲垣 登志男  
運営委員長

#### 1. 流通 BMS の効果を分かり易く説明した資料の作成

「概説 流通 BMS」は大変好評である。年商 200 億円以下の中堅中小の小売業経営者・管理者を向けに作成した。EDI 化が出来ていない中小小売業向けに、「取引業務の EDI 化の必要性」、「伝票レスとは？」を説明する目的で作成した。しかし、地方の企業を訪問してみると、「もうチョット違う資料が欲しい」との声が多い。ターゲットを広げないと普及促進につながらないことが分かってきた。

今回は、EDI、伝票レスを行っている企業に、流通 BMS を導入してどのような効果があるか、何故、流通 BMS かといった資料を作っていく。「タイプ別、規模別、製配販別」に、普及推進部会委員の IT 企業を中心に導入効果を説明した資料を作っていく。

#### 2. すべてのチャネルによる導入の働きかけ

正会員団体（48 団体）の事務局を中心に流通 BMS の導入のアプローチを行う。支援会員企業には、全国各地の企業へのローラー作戦を実施して頂く。普及推進部会では、セミナー等行うが、それだけでは推進しない。地方小売業、地域 VAN に直接訪問し、導入の働きかけを行っていく。また、サプライヤーには、個別に働きかけを行って頂きたい。例えば、サプライヤーである菱食では営業に流通 BMS の教育を行っており、小売業に流通 BMS の導入を進めている。

#### 3. 導入推進目標の設定

導入推進目標を設定し、導入宣言を行う必要がある。具体的な施策として、数値目標を設定して進めていきたい。サプライヤーが一番宣言しやすいと思っている。できれば、来年 4 月には導入宣言を行い、直近 3 年間でサプライヤーは全ての小売業に説明するなどの目標を設定し、小売業に説明していきたい。大手 VAN、地域 VAN にも宣言をするよう働きかけているおり、していただけると思う。小売業がどのような形で宣言していただけるかが、流通 BMS の肝であると思っている。

## セッション3a 流通BMS最新導入事例① ～中堅食品スーパーへの広がり～

### (株)キショッピングセンターにおける流通BMSの活用事例

キショッピングセンターの規模でも、流通BMSの自社構築と運用が出来た。基幹システムの改造もほとんど不要だった。システム化がかなり進んでいる大手小売業に比べて導入効果は大きいと感じている。



岸 弓乃氏

#### キショッピングセンターの概要

- ・商号 株式会社 キショッピングセンター
- ・本社所在地 愛知県一宮市千秋町佐野郷前1-1
- ・創業 1950年7月25日
- ・代表者 代表取締役 岸 弓乃氏
- ・資本金 4,860万円
- ・店舗 スーパーマーケット5店舗
- ・従業員数 300名（パート・アルバイト含む）

講演者：株式会社 キショッピングセンター 代表取締役 岸 弓乃氏



キショッピングセンター  
千秋店（食夢館）

#### I. 流通BMS導入のきっかけとなった経営課題

幼少時は家業のスーパーマーケットが大嫌いで、高校を卒業後に米国カリフォルニア州に大学留学し、不動産売買に興味を持ったことから米国不動産会社でインターンシップよりブローカーのアシスタントとして就業経験するなどの異色の経歴を持っている。

米国から帰国後キショッピングセンターに入社し、1年目はレジ係でお客様や社員の方と接することから仕事を始めた。2年前、社長就任後、会社を取り巻く外部あるいは内部の経営課題に直面した。外部の経営課題とは、店舗のドミナント展開中に現れた競合店による低価格攻勢（半年から1年の間、大根、レタス、キャベツ、もやし、きゅうりが各1円、国産ムネ肉100g9円、白玉うどん、焼きそばも一玉1円などで販売する）による1円戦争が勃発したことであり、キショッピングセンターの強みが奪われ、方向転換を迫られた。内部の経営課題とは、社員並みに時給の高いプロフェッショナルなパートにしか出来ない複雑で高度な能力を要するドライグロッサリーの発注、FAX・電話を駆使した仕入、店の近くの倉庫に大量在庫を持った販売方法などである。

流通BMS導入のきっかけとなった経営課題をまとめると下記の5項目になる。

- (1) ドミナント展開を脅かす価格競争の激化・・・“1円戦争”ほか
- (2) 個人に頼ったバイイングと品揃え・在庫の偏重  
.....例えば、お米のアイテム数と鮮度
- (3) 取引形態、本部・店舗業務再整備の遅れによる効率の悪化  
.....電話主体の都度取引、同一商品複数取引先など
- (4) 社員、パートのスキルアップ、モチベーションアップ機会の不足  
.....本部と店舗、経営と現場のコミュニケーションの形骸化
- (5) 経営の意思決定、現場での判断に必要な数字の欠如  
.....例えば、在庫・粗利の算出頻度と精度

#### II. 経営改革プロジェクトとその支援のための流通BMS

コーネル大学主催のリテールマネジメントプログラム（2回/月）で最先端のスーパーマーケットの経営方法を勉強したが、キショッピングセンターの経営はこれと大きく異なっていることを認

識した。同じ受講生だった成城石井の久保前社長のコンサルティング支援を受け、経営課題を解決するため2009年7月に経営改革プロジェクトを立ち上げ、戦略を練ったが、基礎となる3つの改革が必要だった。

1つ目は、企業は人なりということで、人事の改革、教育の強化。2つ目は、会議体の改革。従来の会議体は、1回/月で幹部報告会のスタイルで行っていたが、時代の流れも速いので、1回(月曜日)/週の意思決定会議に変更し、月曜日に意思決定して月曜日から日曜日に実行してその結果を翌月曜日に持ち寄り、検証した結果、再度意思決定することにした。

3つ目は、情報システムの改革である。会議体の改革による意思決定会議である数字が見たいと言っても、その数値がリアルタイムに出て来ない問題があった。例えば、粗利額を毎週見ていこうと言うことで、粗利の部門別集計を指示するものの、月末締め10日後にしか分からなかった。久保前社長は、成城石井では粗利が毎日分かるのに比べてキショッピングセンターの遅さにびっくりされたが、キショッピングセンターからすると成城石井の毎日粗利が見られることは驚きであった。情報システムの改革を行わないと会議も出来ない、数値も把握できないという現実に迫られ、流通BMSの構築をしていこうと決意した。

#### Ⅲ. 流通BMS採用決定から稼働まで

流通BMS採用決定から稼働までを1年弱で行った。基本方針策定の3ヶ月間でいかに情報システムが重要であるかを実感した。リテールマネジメントプログラムで情報システムのスタディもしたが、3文字の専門用語(JCA、EDI、BMS、ASP)の意味やハンディターミナルを使った発注システムの裏側の仕組みが分からなかった。流通BMSの構築にあたって、基幹システムのベンダーからキショッピングセンターの現状説明を受けるが、専門用語ばかりであったことや難しい図による説明などで、益々分からなくなった。ベンダーオリジナルの新EDIの提案を受けるが、大パニック状態となった。一方、リテールサイエンスからもお話を頂き、システムの事は相変わらず分からなかったが、システムを導入した後のイメージが非常に湧きやすく、このシステムを導入するとういうことが出来るようになる、こういう形で色んな事が進んでいく、と説明して頂き、情報システムが重要であると実感出来た。

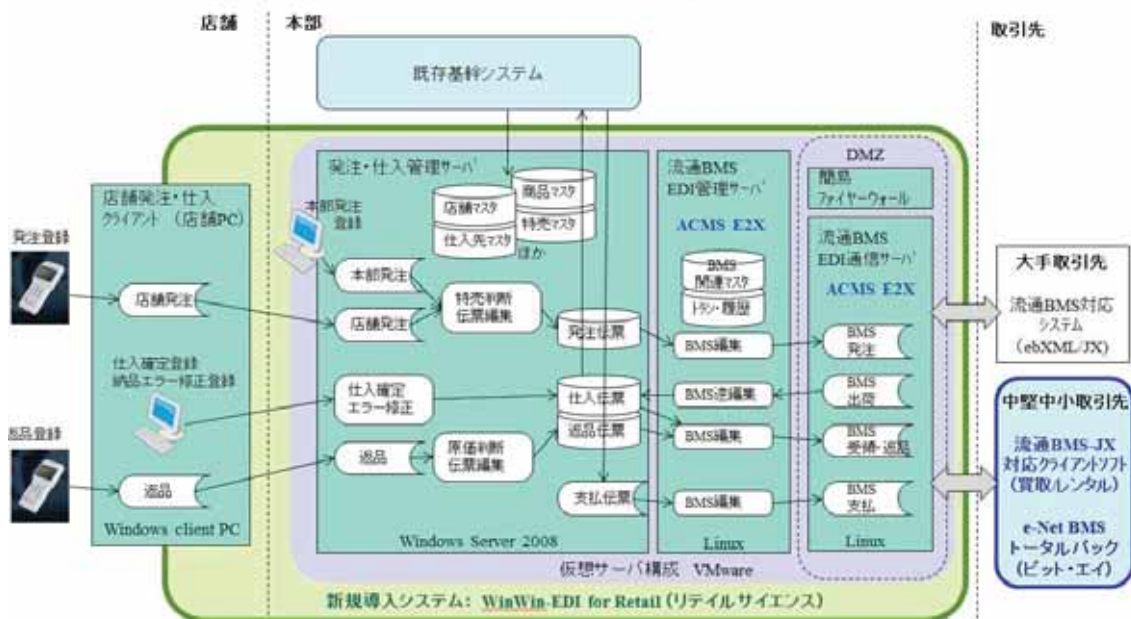
流通BMSの詳細検討の2ヶ月間では、インターネットプロバイダの会社を立ち上げていたのでネットワークは自社構築を選び、発注、仕入業務などの基幹システムに手を入れることはせず、基幹システムに外付けする形で構築することにした。流通BMSを導入するには、お取引先の協力が重要であり、2009年12月4日に説明会を行った。お取引先の営業の方、零細企業、メーカーの方に対して流通BMSの主旨を説明したが、ほぼすべてのお取引先の出席があり感謝した。システム説明はリテールサイエンス社に協力頂いたのが、ITを知らない方には難しかったと思われる。流通BMSを採用したのは、お取引先にとって将来に渡ってメリットになるし、小売毎にシステム開発する負担をなくし、新商品開発やマーケティングに注力して頂けたらお互いにメリットがあると判断したからである。流通BMSシステムの構成は次頁の流通システム全体図の通りで、緑色の部分が自社構築した流通BMSサーバーと発注・仕入業務の新システムに対応する。流通BMS導入前は基幹システムで6社とJCA手順で接続していたが、流通BMS導入後は、EDIの範囲を広げることから業務面を見直し、システムを刷新した。右下の青色部分は、コメリの子会社ビットエイが開発した中堅・中小取引先向けの廉価なソフトで接続するお取引先である。お取引先30社で採用されているが、その3分の2は月額レンタル方式を選択して貰っている。

#### Ⅳ. 流通BMS稼働の現状と今後の予定

私は、社長とお酒のバイヤーを兼務しており、バイヤー経験でお酒の仕入方法や定番発注の現状が把握できた。流通BMS稼働前のある店舗の発注では、多種多様なお酒に対応した発注用紙(A4×5枚)から容量違いの該当のお酒を探し出して数量を書く中で、特定商品は原価が安い別のお取引先に発注するなどの複雑さがあった。発注用紙は、毎日、書いた数量を消しゴムで消す、破れたらコピー

## 流通BMSシステム全体図

既存基幹システムには種力手を加えず、新規導入する発注・仕入管理サーバに関連するメッセージ処理を行う形態にして、投資額を抑えた。



KISHI SHOPPING CENTER

流通BMSフォーラム2010 講演資料

ーするなどして再利用していた。1列あるお酒の発注に初めは1時間以上かかったが、慣れれば15分程度で出来るようにはなった。グロッサリー発注は、お酒よりもさらに膨大で複雑であり、パートが血のにじむような努力をしている事をバイヤー経験で体感した。

流通BMS稼働後、マスタ登録せずには発注、売上が出来ない仕組みが確立された。バイヤーがマスタ登録し、現場では発注先のお取引先を考慮することなく商品のバーコードをスキャンし、数量を入力し、送信するだけで発注が済むようになった。ドライグロッサリーの9割は流通BMSで発注を行っている。発注時間が大幅に削減される、複雑な発注がなくなり欠品がなくなる、などの効果が出ている。また、FAX・電話による発注で発生していた問題、「FAXを送ったつもりが、送られていなくて、商品が届かない。」「お取引先と当社間における聞いた、聞いていない、の食い違いによる欠品。」などが皆無となった。仕入伝票の入力がなくなり、パートの時間を他の業務に移すことができるようになった。単品単位で日次の粗利確定ができる基盤が整った。流通BMS導入当初は、お取引先の理解不足から間違えた部門コードや存在しない店舗コードを送ってくる、データの重複送信などのエラーが多発する、などがあったが、現在は少なくなっている。流通BMSの採用を機に商品マスタを整備することでお取引先政策を見直すことが出来た。単なる業務の効率化だけでなく、原価交渉や新商品の取り扱いにも入っていけるメリットは大きい。

今後の予定としては、請求書を無くして銀行振り込みで経理業務の効率化を図ることや導入した流通BMS Ver.1.3を利用した生鮮3品のEDI化も検討中である。

### V. 今後もっとシステムを活かしていくために

今後は、商品の幅を広げる、価格だけでなく価値ある商品を増やす、データの有効活用による全員が売らなければいけない商品販売活動を推進する、発注精度を向上させる、PCが苦手なバイヤーやスタッフに理解してもらうための活動を行う、などが重要になる。良い品揃え、お客様に喜ばれる売場作りには、仕入先の協力が不可欠である。厳しい経済環境の中で小売業と仕入先がお互いに協力して効率化を進める必要がある。流通BMSは、小売業と仕入先が協働で策定した日本で唯一の流通EDI標準である。キシショッピングセンターの規模でも、流通BMSの自社構築と運用が出来た。基幹システムの改造もほとんど不要だった。システム化がかなり進んでいる大手小売業に比べて導入効果は大きいと感じている。流通BMSの導入を1つのきっかけに、経営とシステムの関係についてさらなる知見を深めていきたい。

## セッション3b 流通BMS最新導入事例② (株)丸井における流通BMSの活用事例

流通BMSは地デジ対応のようなもの。いずれ移行することなので、そのために取引先と協業で準備を早くから進めて行く。

講演者：株式会社丸井 業務企画部 部長 原 誠一氏

### I. 百貨店、アパレル業界を取り巻く環境の変化

小売業を取り巻く環境は標準化事業に弊社が参加した2006年と比較し、この3年余りで大きく変化し、様々な影響がでている。

アパレル市場は、外資のファストファッション参入等もあり価格は下落、またヤングマーケット中心に価値観の変化が起き、商品のライフサイクルが短期化、リードタイムの重要性が高まる中、リアルからネットへの移行が急速に進んでいる。ある調査によると、4割～5割の顧客は店舗に行く前にまずネットで商品を調べるといふ。

また、アパレルから雑貨・食・住へと、ライフスタイル型商品へのニーズが高まっており、弊社の最近の新店、有楽町マルイや新宿本館はお客様に参画頂く形式で店づくりを進めてきたが、その中でも上記と同様の声を多数頂いている。

一方、百貨店では業界再編が加速、経営統合がほぼ一巡、統合が進んだことで、システム基盤の共通化、標準化のスタート台に立ったといえる。また、厳しい環境の中、お取引先と取り組むべき仕入手法に変化対応が求められるなど、従来型の百貨店業態は変革期にきている。

### II. 丸井のEDIの現状

丸井では現在、約300社とEDIを行っている。これを売上高構成比で見ると約50%を占めるが、取引先数では約20%になる。方式としては83年導入の取引先オンライン(JCA手順)、99年導入の繊維標準EDI、04年導入のWeb-EDIの3種類があり、約4分の1の取引先が複数の方式を採用している。これは、「繊維標準EDIはお取引先からのデータ送信ができるが、支払いメッセージが存在しない」、「取引先オンラインおよびWeb-EDIは支払いメッセージを送信できるがお取引先からのデータを受信できない」といった特徴があるため、それぞれのメリットを享受するため複数の方式を利用している。

商品マスタデータについては、現在、JANコードで単品管理をしている取引先のうち、4分の3に相当する約340社からエクセルファイルで受け取っている。手動による商品情報登録は大きな負担となっているうえに、最近では納品のサイクルが短くなっているため、取引の入り口である商品マスタの整備は大きな課題だと認識している。

### III. 丸井の流通BMS導入経緯とシステム概要

丸井は2006年度より、経済産業省流通システム標準化事業に参加、EDI標準化に取り組んできた。08、09年度には共同実証を行い、09年4月よりワコール様・トリンプ様と試験導入、10年4月より本格対応をスタートさせた。ノー検品や伝票レスが実現でき、一定の成果を挙げている。そのほかに取引先10社程度が導入済である。

お取引先との接続は3種類の方法がある(図1)。

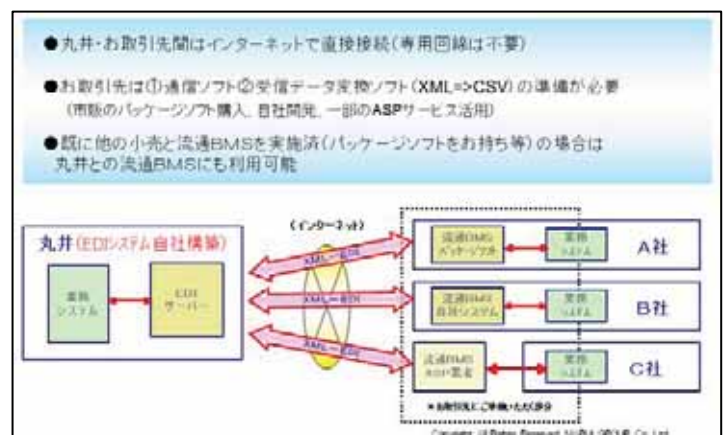


図1 取引先との接続形態

- ① 流通 BMS パッケージソフトを利用する、
- ② 流通 BMS 自社システムを開発する、
- ③ ASP サービスを利用する、

の3つである。当初はパッケージソフト開発も考えたが、既存のソフトや ASP サービスを利用することでお取引先の負担が減ると考えた。市販の流通 BMS 対応パッケージソフトも積極的に紹介している。

また、百貨店には複数の売り場運営タイプがあるため、お取引先主導ショッップ運営型、自主運営売り場品揃え型などタイプにあわせたメッセージ種の利用をイメージしている(図2、図3)。

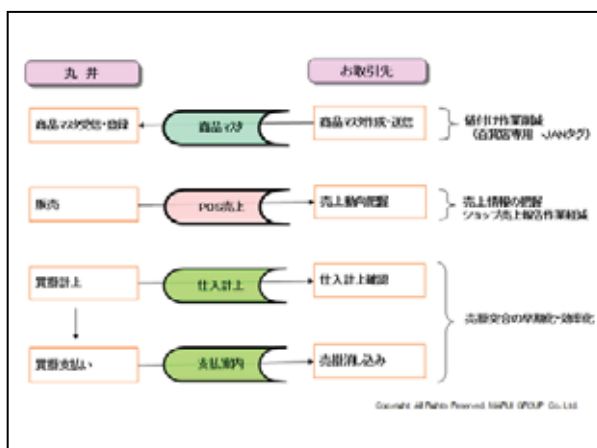


図2 お取引先主導ショッップ運営型

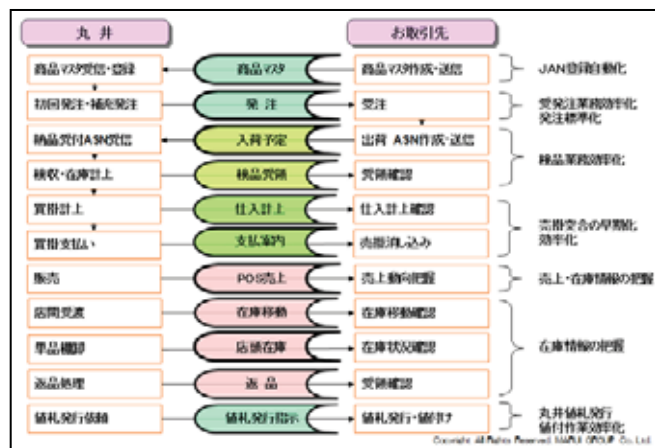


図3 自主運営売り場品揃え型

#### IV. 導入拡大に向けた取組

流通 BMS 導入促進の取組として、まず共同実証後の09年夏から秋にかけて約50社のお取引先を個別に訪問した。また同時期に、EDIを実施しているお取引先200社向けに説明会を実施した。今年はずまず春に商材別に説明会を実施、秋から少人数での説明会を定期的(月2回程度)に実施することとしている。説明会の反応は、おおむね好意的で伝票レス、検品レスへの興味が強かった。また基幹システムの入替えをするタイミングで導入を検討するという取引先が多かった。

具体的なメリットを個別に説明しないと、なかなか流通 BMS を理解してもらえないと感じている。お取引先によって商慣習やニーズが異なるので、商材特性による展開サイクル、SKUレベル、生産・在庫の持ち方など、商売のやり方とシステムを確認し、導入推進している。時間がかかるのは避けられないが、スモールスタート(小数のメッセージ種から開始し、徐々に拡大)でも良いので、先ずは最初の一步を踏み出して課題、もしくはお取引先のニーズがあれば迅速に対応することが重要だと考えている。

長期的には、対象商材の拡大(ファッション・雑貨からグロサリーへ)、Web 通販への活用(画像、キャプションなど、Web コンテンツを情報交換)、情報共有の拡充(お取引先からは商品属性情報を受信、小売業からは性別、年代など購買指標情報を送信)を視野に入れている。

冒頭でお話した通り、商売の環境が大きな変革期を迎えている今こそ、イコールパートナーとしてお取引先との改革、また業界の一員としての推進を日々の商売と同様、基本方針は積み重ね型で今後も流通 BMS に取り組んで行く。



## 流通 BMS 導入企業一覧

下記に掲載している企業は、流通 BMS 協議会事務局が正会員、支援会員の協力を得るなどして独自に把握し、それぞれの企業に社名開示の承認を得て公開しているものです。導入済/予定企業名を公開することによって、流通 BMS の導入促進に資することを目的としております。

(お願い)

下記の場合はお手数でも流通 BMS 協議会の事務局までお知らせください。

○掲載済企業が自社の内容を変更する場合 (例：予定→済に変更)

○未掲載企業が掲載を希望する場合

連絡先：ryutsu-bms@dsri.jp

なお、個別企業に関するお問い合わせにつきましては、守秘義務の関係で回答いたしかねます。

流通BMS導入企業数		2010年11月9日現在		
<b>小売業</b>				
	業態	合計	導入済	導入予定
	1.スーパー	57	43	14
	2.百貨店	9	3	6
	3.ドラッグストア	4	2	2
	4.ホームセンター	3	2	1
	5.生協事業連合	3	3	
	総計	76	53	23
<b>卸売業・メーカー</b>				
	業種	合計	導入済	導入予定
	1.食品卸	42	42	
	2.菓子卸	15	10	5
	3.日用品化粧品卸	10	8	2
	4.医薬品卸	6	4	2
	5.アパレル	7	7	
	6.食品メーカー	13	12	1
	総計	93	83	10

注) 上表の公開企業数は、実際に導入している、または導入を予定している企業数の一部です。  
今後も調査を継続致します。

業態	本社地区	導入状況	企業名	本社所在地(都道府県)	
1.スーパー	1.東北・北海道	済	イオンスーパーセンター(株)	岩手県	
			イオン北海道(株)	北海道	
			マックスバリュ東北(株)	秋田県	
			わしお(株)	福島県	
		予定	(株)アークス	北海道	
	2.関東		済	イオンマルシェ(株)	千葉県
				イオンリテール(株)	千葉県
				(株)E礼拝 <sup>ス</sup> - <sup>ル</sup> - <sup>パ</sup> - <sup>た</sup> じま	東京都
				(株)小田原百貨店	神奈川県
				(株)おどや	千葉県
				(株)信濃屋食品	東京都
				(株)成城石井	神奈川県
				(株)セレクション	東京都
				(株)ダイエー	東京都
				(株)ダイユー	栃木県
				(株)たまや	神奈川県
				(株)トップ	東京都
				(株)バイシア	群馬県
				(株)マルエツ	東京都
				(株)ヤオハン	栃木県
				(株)やまか	神奈川県
				(株)ユータカラヤ	神奈川県
				百合ヶ丘産業(株)	神奈川県
			予定	(株)イトーヨーカ堂	東京都
				(株)尾張屋	千葉県
				サミット(株)	東京都
				(同)西友	東京都
				(株)東急ストア	東京都
				(株)ヤオコー	埼玉県
			(株)結城ショッピングセンター	茨城県	
	3.中部		済	(株)魚栄商店	新潟県
				(株)カネスエ	愛知県
				(株)キシショッピングセンター	愛知県
				(株)ユース	福井県
			ユニー(株)	愛知県	
	予定	(株)パロー	岐阜県		
	(株)義津屋	愛知県			
	4.近畿		済	イズミヤ(株)	大阪府
				(株)近商ストア	大阪府
				(株)光洋	大阪府
				(株)スーパーサンエー	大阪府
				(株)平和堂	滋賀県
				マックスバリュ西日本(株)	兵庫県
			予定	(株)オークワ	和歌山県
				(株)ぎゅーとら	三重県
	(株)主婦の店 赤穂店	兵庫県			
	5.中国・四国		済	Aコープ中国	広島県
				(株)キヌヤ	島根県
				(株)ニチエー	広島県
				(株)ハローズ	広島県
(株)丸久				山口県	
(株)みしまや				島根県	
予定			(株)マルイ	岡山県	
6.九州・沖縄		済	イオン九州(株)	福岡県	
			(株)サンライフ	大分県	
			(株)西鉄ストア	福岡県	
			琉球ジャスコ(株)	沖縄県	

流通 BMS 導入企業一覧 小売業

2010年11月9日 現在

業態	本社地区	導入状況	企業名	本社所在地（都道府県）
2.百貨店	2.関東	済	(株)小田急百貨店	東京都
			(株)丸井	東京都
	3.中部	予定	(株)高崎高島屋	群馬県
		予定	(株)岐阜高島屋	岐阜県
	4.近畿	済	(株)高島屋	大阪府
	5.中国・四国	予定	(株)岡山高島屋	岡山県
			(株)米子高島屋	鳥取県
	6.九州・沖縄	予定	(株)井筒屋	福岡県
(株)コレット井筒屋			福岡県	
3.ドラッグストア	1.東北・北海道	予定	(株)薬王堂	岩手県
	2.関東	済	(株)マツモトキヨシホールディングス	千葉県
		予定	(株)クスリのマルエ	群馬県
	3.中部	済	(株)ユタカファーマシー	岐阜県
4.ホームセンター	2.関東	済	トステムビバ(株)	埼玉県
		予定	(株)カインズ	群馬県
	3.中部	済	(株)コメリ	新潟県
5.生協事業連合	3.中部	済	東海コープ事業連合	愛知県
	4.近畿	済	コープきんぎ事業連合	大阪府
	6.九州・沖縄	済	コープ九州事業連合	福岡県

注)スーパーには、総合スーパー、食品スーパー、スーパーセンターなどの業態が含まれます。

業種	導入状況	企業名
1.食品卸	済	旭食品(株)
		(株)飯田
		伊藤忠食品(株)
		大分国分(株)
		(株)大分ヨーシヨク
		加藤産業(株)
		関東国分(株)
		(株)岐阜ヨーシヨク
		(株)国分
		国分フードクリエイト(株)
		山陰国分(株)
		サンリック国分(株)
		四国国分(株)
		(株)四国ヨーシヨク
		シュレン国分(株)
		(株)昭和
		東京国分(株)
		東北国分(株)
		(株)トーカン
		長崎国分(株)
		新潟国分(株)
		(株)新潟ヨーシヨク
		西中国国分(株)
		(株)日本アクセス
		日本アクセス北海道(株)
		東中国国分(株)
		(株)ヒメカン
		兵庫国分(株)
		廣屋国分(株)
		(株)福島ヨーシヨク
		藤徳物産(株)
		北陸国分(株)
		(株)北陸ヨーシヨク
		(株)北海道ヨーシヨク
三重国分(株)		
三井食品(株)		
南九州国分(株)		
明治屋商事(株)		
ヤマキ(株)		
ユアサ・フナシヨク(株)		
(株)菱食		
(株)リョーシヨクリカー		

業種	導入状況	企業名
2.菓子卸	済	(株)エヌエス
		(株)大島屋
		コンフェックス(株)
		(株)サンエス
		(株)正直屋
		(株)相互
		(株)外林
		(株)種清
		ふたばコンフェックス(株)
		(株)山星屋
	予定	セイカ食品(株)
		(株)関口
		田代コンフェックス(株)
播磨物産(株)		
	(株)横山	
3.日用品化粧品卸	済	(株)あらた
		大分共和(株)
		岡山四国共和(株)
		花王カスタマーマーケティング(株)
		中央物産(株)
		(株)東流社
		(株)富田屋商店
	(株)Paltac	
	予定	(株)井田両国堂
		(株)東京堂
4.医薬品卸	済	(株)大木
		シーエス薬品(株)
		丹平中田(株)
		(株)琉薬
	予定	中北薬品(株)
(株)リードヘルスケア		
5.アパレル	済	アツギ(株)
		(株)オンワード樫山
		クロスプラス(株)
		ガンゼ(株)
		(株)三陽商会
		トリップ・インターナショナル・ジ・ジャパン(株)
(株)ワコール		
6.食品メーカー	済	伊藤ハム(株)
		銀河フーズ(株)
		JA全農ミートフーズ(株)
		JA高崎ハム(株)
		スターゼン(株)
		滝沢ハム(株)
		日本ハム(株)
		プリマハム(株)
		森永乳業(株)
		(株)モンテール
		(株)ヤクルト本社
		米久(株)
	予定	(株)九食

注) 小売業、卸売業・メーカーの公開企業名は、一部です。今後も調査を継続致します。

## コーヒブレイク

### ～ 流通 BMS 百貨店版メッセージとは？ ～

今回は、流通 BMS 百貨店版メッセージについて、確認します。



流通 BMS には、「基本形メッセージ」と「百貨店版メッセージ」の2つのメッセージがあり、「百貨店版メッセージ」は、百貨店の商慣習に合わせ「買取型ビジネスプロセス」と「消化型ビジネスプロセス」の27メッセージから構成されています。

「買取型」とは、百貨店が入荷検品した時点で、仕入計上を行う取引形態。「消化型」とは、百貨店が商品を販売し売上が発生した時点で、仕入計上を行う取引形態で、これまでの百貨店 EDI は「買取型」を中心に作成されていましたが、近年「消化型」取引が増加していることから、流通 BMS では、「消化型ビジネスプロセス」のメッセージも作成しています。

百貨店業界では、流通 BMS が今後業界を挙げて推進する唯一の標準 EDI であるとの共通認識も醸成されており、今後、各社のシステム更改のタイミングに伴い拡大していくと見込んでいます。

流通 BMS 百貨店版メッセージには、「買取型ビジネスプロセス」と「消化型ビジネスプロセス」があります。

Ver.2.1 で、在庫・需要状況メッセージが追加され、全27メッセージになりました。

分類	買取型	消化型
商品マスタ	商品マスタ(カタログ・プロフィール)	
	商品マスタ(PLU)	
	商品マスタ(マークダウン)	
納品提案	納品提案	搬入提案
発注	発注	搬入依頼
入荷予定	入荷予定(梱包)	搬入予定(梱包)
	入荷予定(伝票)	搬入予定(伝票)
	納品数量	搬入数量
検品受領	検品受領(梱包)	搬入確認(梱包)
	検品受領(伝票)	搬入確認(伝票)
返品	返品	返送
仕入計上	仕入計上	
支払案内	支払案内	
POS売上	POS売上(レシート単位)	
	POS売上(商品別集計)	
店頭在庫	店頭在庫	
店頭在庫移動	店頭在庫移動	
値札	値札	
在庫・需要状況	在庫・需要状況	



詳細は、『流通 BMS 講座』で確認して下さいネ！

協議会会員一覧（会報No.9 発行後、支援会員4企業が新たに会員登録されました。）

1. 正会員入会状況（2010年11月15日現在。48団体）（団体名50音順）

オール日本スーパーマーケット協会	(社)全日本医薬品登録販売者協会	(社)日本スポーツ用品工業協会
(財)家電製品協会	全日本菓子協会	日本生活協同組合連合会
酒類加工食品企業間情報システム研究会(F研)	全日本履物団体協議会	日本石鹸洗剤工業会
情報志向型卸売業研究会	全日本婦人子供服工業組合連合会	(社)日本専門店協会
食肉流通標準化システム協議会((財)日本食肉流通センター)	(社)全日本文具協会	日本チェーンストア協会
(財)食品産業センター	(社)大日本水産会	日本チェーンストア協会
(財)食品流通構造改善促進機構	(社)日本アレル産業協会	(社)日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会
(社)新日本スーパーマーケット協会	(社)日本医薬品卸業連合会 大衆薬卸協議会	日本歯磨工業会
(財)生活用品振興センター	(社)日本衛生材料工業連合会	日本ハム・ソーセージ工業協同組合
全国医薬品小売商業組合連合会	日本OTC医薬品協会	日本百貨店協会
全国卸売酒販組合中央会	(社)日本加工食品卸協会	(社)日本フードサービス協会
全国菓子卸商業組合連合会	(社)日本玩具協会	日本文紙事務器卸団体連合会
全国化粧品日用品卸連合会	日本化粧品工業連合会	(社)日本ボランティア・チェーン協会
全国青果卸売協同組合連合会	日本GCI推進協議会	(社)日本レコト協
(社)全国中央市場水産卸協会	一般社団法人 日本出版インフラセンター	(社)日本ロジスティクスシステム協会
(社)全国中央市場青果卸売協会	日本スーパーマーケット協会	協同組合 ハウネット

2. 支援会員入会状況（2010年11月15日現在。146社）（社名50音順）

新規支援会員：(株)アットマーク、NEC 初サリューション(株)、(株)NTTデータミス、(株)ソフ

(株)アール	NEC初サリューション(株)	(株)ジャパンインフォックス	日本アドバンスリーダースソフトウェア(株)	フューチャーアーキテクト(株)
(株)アイシーエス	NECパーソナルプロダクト(株)	SOOP(株)	日本経済新聞社	(株)プラス
(株)アイティフォー	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	住商情報システム(株)	日本事務器(株)	(株)フライング
(株)ITビジュアル	エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)	住友セメントシステム開発(株)	日本情報通信(株)	(株)フリーポート
(株)アイネット	(株)NTTデータミス	セコムプレジジョン(株)	日本電気(株)	(株)メイト
(株)アグリコミュニケーションズ	大阪市中央卸売市場	(株)ゼン情報システムズ	日本ビューレット・ハッカド(株)	北陸コンピュータサービス(株)
(株)あじよ	大阪商工会議所	創玄塾	日本ペリサイン(株)	ホンダロジコム(株)
(株)アスコット	沖縄流通VAN(株)	ソラン(株)	日本ユニス(株)	ミツワ(株)
(株)アットマーク	オアシスマヤマ	大興電子通信(株)	日本ラッド(株)	三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)
イーサポートリンク(株)	オリパスシステムズ(株)	(株)大洋システムテクノロジー	(株)ニュートラル	三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
(株)イーネット	カストラス(株)	(株)外トラ	(株)ネクスジェンコンサルティング	(株)日本情報処理センター
eBASE(株)	キヤノITソリューションズ(株)	TIS(株)	(株)野村総合研究所	(株)Minorityソリューションズ
イー・マネージング・コンサルティング協同組合	(株)クライム	(株)DTS	パナソニックシステムネットワークス(株)	(株)ミンクス
(株)イシダ	(株)ケイコム	(株)TKC	パワーワークス(株)	メルシーネット(株)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)	K・ビジネスサポート(株)	(株)データアプリケーション	(株)日立情報システムズ	ユーザックシステム(株)
(株)インターコム	(株)コスモコンピュータシステムズ	テクトラシステム	(株)日立製作所	(株)U-Think
(株)インテージ	小林クワイエット(株)	(株)テックプレーン	日立ビジネスソリューション(株)	(株)ユーフィット
(株)インテック	(株)コムアノート	(株)デジタルコンセプト	(株)ビット・エイ	(株)ユニックス
(株)インフォーマ	(株)サイバーリンク	(株)デジタルデザイン	(株)ひむか流通ネットワーク	ユニバーサルフード(株)
(株)インフォメーションプロセッシングリサーチ	(株)さくらシーエス	鉄道情報システム(株)	(株)ファイネット	(株)ライトウェーブコンサルティング
ウインキュラム ジャパン(株)	(株)サトー	(株)寺岡システム	(株)フィンテックジャパン	ライトシステムコンサルティング(株)
ウルシステムズ(株)	(株)サンレックス	(株)寺岡精工	(株)福岡CSK	(株)ラック
(株)イー・アイ・エス	(株)CSK	東芝情報機器(株)	富士ゼロックス(株)	(株)リテイルサイエンス
(株)HBA	GMOグローバルサイン(株)	東芝テック(株)	富士ソフト(株)	(株)リネット
(株)エス・エフ・アイ	(株)ジェイ・エス・エス	トパン・フォームズ(株)	富士通(株)	ロジ共働促進(株)
(株)SJC	(株)JSOL	(株)トライ	富士通エフ・アイ・ピー(株)	(株)ワイ・ティ・シー
(株)S-Parts	JB7アドバンス・テクノロジー(株)	西日本オフィスメーション(株)	(株)富士通システムソリューションズ	
エス・ピー・システムズ(株)	(株)システム・トラスト	日経メディアマーケティング(株)	(株)富士通総研	
エヌアシー・インフォトレード(株)	(株)シスラホ	(株)ニッセイコム	(株)富士通中部システムズ	
(株)NEC情報システムズ	シャープシステムプロダクト(株)	日本アイ・ビー・エム(株)	(株)富士通マーケティング	

<編集後記>

今年度のビックイベントである「流通BMSフォーラム&ソリューションEXPO 2010」が、盛況のうちに終了しました。多くの方にフォーラムに参加頂き、また、ほぼ昨年と同数の支援会員様の出展によるソリューションEXPOも、多くの方々に来場頂きました。



今回、フォーラム内で、流通BMS導入および導入予定企業名を公開いたしました。（※本会報に記載、流通BMS協議会ホームページに公開中）昨年10月の基本形 Ver.1.3（基本形と生鮮版を統合！）の公開あたりから、導入および検討を開始した企業様が増えていると聞いております。今回の企業名公開により更なる普及拡大されることを期待しております。

また、来年度も同時期（11月3週目頃）に「流通BMSフォーラム&ソリューションEXPO2011」を開催する予定です。流通BMSの新たな導入事例そして多くのソリューション等を、一堂に会してご紹介し、利用者そしてサービス提供者共に有意義な場にしたいと考えております。来年度も、多くの方の、ご協力そしてご来場をお願いいたします。支援会員には、出展のための、社内調整を早めをお願いいたします。

12月以降の流通EDI入門講座、流通BMS講座（導入編、システム設計編）の開催予定をお知らせいたします。早めのお申込みをお願いいたします。

流通EDI入門講座、流通BMS講座 開催スケジュール(2010年12月～2011年2月)

講座名	開催地区	開催スケジュール			
		12月	2011年1月	2月	
流通EDI入門講座	東京	△12/9		△2/1	毎月 開催 (東京、大阪)
	大阪		△1/28		
流通BMS講座 (導入編)	東京		△1/18		1回/2ヶ月 開催 (東京、大阪)
	大阪			△2/24	
流通BMS講座 (システム設計編)	東京		△1/26		1回/3ヶ月 開催 (東京)

※開催月の前月月初から申込受付開始

※流通EDI入門講座、導入編、システム設計編の3講座は、無料です。

申し込みはこちらから <http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/edi.html>

今後ともご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

(さ)

発行 : 2010年11月29日 発行

発行人: 流通システム標準普及推進協議会 (流通BMS協議会)

住所 : 〒107-0052

東京都港区赤坂 7-3-37 プラス・カナダ 3階 (財) 流通システム開発センター内

Tel : 03-5414-8505 Fax : 03-5414-8513

E-mail : [ryutsu-bms@dsri.jp](mailto:ryutsu-bms@dsri.jp)

URL : <http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>